

学力の基盤としての国語力向上のために

センターでは、「京の国語力向上プロジェクト会議」における取組として、「京の国語力向上指導資料」（仮称）の編集を進めています。平成19年3月に完成する予定です。

児童生徒に幅広い国語力を身に付けさせるには、国語科の基礎・基本の徹底を図るとともに、全教科・領域等で、国語力育成の視点をもった授業づくりが必要です。

そのためには、各教科本来のねらいを明確にしつつ、他教科との関連を踏まえて総合的に国語力の育成を図ることが重要です。現在作成中の指導資料は、発達段階に即して育成すべき力と言語活動を表（図1マトリクス）にし、それに基づいて指導例（図2）を集めた京都府独自の内容となります。

《「マトリクス」の特長》

各教科・領域等における学習活動において「話す・聞く」活動、「書く」活動、「読む」活動を重視し、「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」を育成するための視点を明らかにしたものです。その概略を12の項目で示したものの（図1）と学年の発達段階に沿って並べ替えたものを作成しました。

図1 マトリクス

身に付けさせたい国語力とそれを育成する主な活動			
国語力	話す・聞く	書く	読む
考える力	・自分の考えを明確にし、論理的に伝える。 ・話し手の意図を感じながら聞く。	・論理的な文章を書く。 ・自分の意見や考えを整理して書く。	・論理的に分析して読む。 ・詳細しながら読む。 ・目的に応じて解釈して読む。 ・課題に即して読む。
感じる力	・心に感じたことを相手に向き合いながら伝える。 ・話し手の気持ちを感じながら聞く。	・自分の思いを工夫して書く。 ・相手の気持ちを考えながら書く。	・情感を込めて読む。 ・心情や場面について優れた表現を味わう。
想像する力	・話し手の意図や内容についてイメージを描きながら聞く。 ・相手の立場や状況、思いを描きながら話す。	・豊かな想像力を働かせて書く。 ・構成や展開を考えながらイメージするものを書く。	・場面や状況を思い浮かべながら読む。 ・相手の立場や状況を思い描きながら読む。
表す力	・相手や場面に即して伝える内容をわかりやすく話す。 ・辞書、辞書、辞書など活用しながら話す。	・自由や意図に応じて筋道を立てて書く。 ・表現の効果を考えて書く。	・相手や目的を意識して読む。 ・リズム、音声、強弱を意識する。

ポイント 紙面最上部の濃い緑色のゾーンには、学年や教科、「書く」活動を通して「考える力」の育成を目指した指導例であることを示しています。合わせて身に付けさせたい力の内容を付記しています。

ポイント 黄色の吹き出しには、本時の流れの中で、特に工夫したい国語力育成の視点を具体的に提案しています。

ポイント 白枠の中は、教科等の本来のねらいや内容を示しています。

図2 指導例

小学校 1年 生活科

学習目標 「あきになったね きもちがいいね」

学習のねらい 新出の言葉や表現が得意に用いられる。そして読んだ自然と嬉しさを伝えたり、感動が伝わることを感じたりすることができる。

国語力育成の視点

- 「話す・聞く」の視点：野やでの活動に「話す・聞く」の活動を組み込みます。また、活動の中で感情が伝わるように、互いの話をよく聞き、感動を伝える場を設けます。
- 「書く」の視点：表現したいことを書く。思ったことを書く。書いたことを読む。書いたことを読む。書いたことを読む。書いたことを読む。
- 「読む」の視点：実際に読んだ本に感動を持って、「もっとこんなことかいたい」と思ったことなど、子どもが感じたことや思ったことを書く。1年生も読書にふさわしい言葉や表現、思ったことを書く。1年生も読書にふさわしい言葉や表現、思ったことを書く。

導入 新出の言葉や表現が得意に用いられる。そして読んだ自然と嬉しさを伝えたり、感動が伝わることを感じたりすることができる。

展開

- 1 読んだ本について話そう。（おんせん）
- 2 読んだ本の感想を話そう。（おんせん）
- 3 読んだ本について話そう。語り手や登場人物、場面や状況、感情などについて話そう。（おんせん）
- 4 読んだ本の感想を話そう。（おんせん）
- 5 読んだ本の感想を話そう。（おんせん）

まとめ 読んだ本について話そう。（おんせん）

学習のねらい 読んだ本について話そう。（おんせん）

学習のねらい 読んだ本について話そう。（おんせん）

学習のねらい 読んだ本について話そう。（おんせん）

学習のねらい 読んだ本について話そう。（おんせん）

ポイント 緑色のコーナーは、ワークシートやノートの例、児童生徒の作品や参考資料等を提案しています。

